

公共・倫理

問題1 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

西洋中世を特徴づけていた2つの階層的支配構造（ヒエラルキー）、すなわち、キリスト教を基盤とするものと封建制・荘園制に基づくものの弱体化ないし解体を背景に、個人の（A）と（B）を神的権威への従属から解放しようとする動向が生まれ現実に作用する中で、徐々に、主権国家体制、市民社会、（C）、国民国家といった社会システム、つまり人間同士の結びつきの新たな形態が成立していった時代、それが西洋近代である。中世から近代へと移行する中でもたらされた社会変容は、西洋という一地域に留まることはなく、近代化によって強大な力を持つようになった西洋諸国が大航海時代を経て地球上の広範な地域に対してその力を行行使し、ときにそうした地域を（D）化することにより、世界中に伝播した。周知の通り、日本も例外ではない。

以上のような社会体制がそれに抗おうとする諸集団を内包しながら確立されることによって、私たちは、さまざまな規模や性格の公共的空間を他者とともに（E）的に形成すると同時に、そうした政治的・法的空間を離れて、他者に頼われないプライベートな空間を確保する義務を負うことになった。しかしながら、こうしたプライベートな空間は公共的空間の直中で確保されねばならないことから、個人の（A）と（B）も、公共空間を統べる規範によって保障され、（B）については場合によっては制限されない限り、容易に毀損されるものとなった。すなわち、人間が生来持ち合わせているとされる各種の（F）も当たり前のように自覚されたり保護されたりすることはなく、例えば、日本国憲法の基本原理想も、私たちが（E）的に法規範や政治的体制を整えることによって実効的にしなければならないのである。

今までの記述からも理解できるように、公共的空間、すなわち社会は、独立した主体としてこの形成に（G）するものという人間理解に支えられている。こうした理解は、私たち人間が生まれながらにして顕在的に持ち合わせているものではなく、人間として成長する中で獲得されるものである。またこうした理解は、個人史において獲得されるものというだけでなく、（H）の拡大の歴史を思い起

こせば明らかのように、人類が歴史的に深めてきたものである。したがって、決して意識が高いわけではない人間は、こうした理解を深め、改良し、そうすることによって自分自身と同時に社会をよりよいものに変えていく努力を続ける必要があるだろう。そうした人間の営みは、改めて、人間の未熟なあり方や、人間以外の動物とも共有している生存のための私益追求活動を適切に評価し、これを否定するだけでなく、ときにこれと寄り添い和解する道を開くことにもなるだろう。私的欲求を効率的に満たすために子どもを生まない選択をすることもその一因と考えられる少子化の対策として、生まない自由を制限することなく解決を図ろうとすることも、私的欲求を優先する生き方への寛容として理解できるかもしれない。

西洋という地球上の一地域で顕著なかたちで生じた社会変容は、人間に、自分自身を含めた人間との付き合い方を再考するよう促し続けているのである。

問1 文中の（A）～（H）に当てはまる語を以下の①～⑩の中から選び、番号で答えなさい。

- ① 参画 ② 参政権 ③ 資本主義 ④ 社会主義 ⑤ 自由
⑥ 植民地 ⑦ 自律 ⑧ 人権 ⑨ 尊厳 ⑩ 民主

問2 文中下線部(a)について、これを構成する主権以外の2つの要素を答えなさい。

問3 文中下線部(b)について、国家に関するこのような形態が成立していくきっかけとなったとみなされている戦争と、その講和条約を答えなさい。

問4 文中下線部(c)について、現代社会に当てはまるものを以下の①～④の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 日本では、地方公共団体の政治に関しては、日本国民の意思にもとづいて政治を行うという国民自治の考え方が採用されている。
- ② 日本国憲法は衆参両議院の総議員の3分の2以上の賛成によって改正が発議され、続く国民投票で過半数が賛成することによって改正される。
- ③ 1945年に調印された国際連合憲章では、集団安全保障が基本原理として採用され、一国家単独での自衛権については容認されていない。
- ④ 1966年の国際連合総会で採択された国際人権規約に関して、日本はすべての項目を承認しているわけではないので、この規約を批准していない。

問5 文中下線部(d)について、これに当てはまるものを3つすべて答えなさい。

問6 文中下線部(e)について、これに関連する内容として正しいものを以下の①～④の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① ハヴィガーストは青年期の発達課題を考察するに当たって、精神的な要素や社会的な要素に着目し、身体的な要素を軽視した。
- ② ハヴィガーストは青年期の発達課題を考察するに当たって、親からの情緒面での独立だけでなく、経済面での独立も重視した。
- ③ マズローは、欲求には発達段階に応じた階層性があり、生理的欲求に始まって自己実現の欲求を経て、親和の欲求へと高まっていくと説いた。
- ④ マズローは、承認欲求が満たされることによって自尊心が芽生えたと考え、承認を得るために他者の要求に応えたいという欲求が根本だと説いた。

問7 文中下線部(f)について、近代市民社会においてこうした追求活動を支配的・独占的に行っているとして否定的に評価される階級を何と呼ぶか、答えなさい。

問8 文中下線部(g)について、上の文章で挙げられていない原因を1つ答えなさい。

(G) 大仏建立の際に八幡神が協力したという一件に象徴されるように、日本の神は仏教を守る神であるという思想が広まった。平安時代には、日本古来の神の本来の姿は仏であり、神とは仏が日本の衆生を救うために仮の姿をとって顕現したものであるという考え方が全国的に流布した。鎌倉時代末期からは逆に仏の本来の姿が日本古来の神であるという考え方も登場した。このように、神と仏を調和的に融合し、一体的に信仰しようとする現象が見られることが日本の宗教文化において特筆すべき点のひとつであり、この現象は明治政府によって出された日本古来の神と仏とを同一視することを禁じる命令を経てまもなく、現在まで根強く生き残っている。

問1 文中の(A)～(J)に当てはまる語句を以下の①～⑮の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | |
|-----------|------|--------|-------|
| ① 蕃神 | ② 戒壇 | ③ 功名心 | ④ 祭祀 |
| ⑤ 十三宗五十六派 | ⑥ 仁 | ⑦ 神宮寺 | |
| ⑧ 清明心 | ⑨ 崇り | ⑩ 鎮守の神 | ⑪ 東大寺 |
| ⑫ 南都六宗 | ⑬ 和 | ⑭ 5 | ⑮ 6 |

問2 文中下線部(a)について、これに関する内容として正しいものを以下の①～⑤の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 罪や穢れを除去するために行われる儀式のうち、火を使って行われるものを禊という。
- ② 罪や穢れとは人間に関わる概念であり、超越的な存在である神々はそれらとは無縁である。
- ③ 罪や穢れが除去されたかどうかは、絶対的な究極の神であるアマテラスに託宣を求めることによって知ることができる。
- ④ 罪や穢れとは農耕の妨害のような共同体を危機にさらす行為だけでなく、病気や災害、死なども含む概念である。
- ⑤ 罪や穢れは心の内側から染み出して人間をおびやかすものであり、それを除去するための儀式の際には、思い当たる罪や穢れを告白する必要がある。

問題2 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

日本は外来文化を取り入れ、それを自分たちに合う形に加工して吸収することで自らの文化を形成してきた。その際、在来文化が消滅してしまうのではなく、在来文化の上に新しい文化が重なり共存するという重層的な構造を成していることが大きな特徴のひとつである。

たとえば古神道においては自然物や自然現象などのうちに神を見出し、多種多様な神が祀られていた。天変地異や飢饉、疫病といった(A)は神が人間の前に立ち現れているものと理解され、人々は供物や神楽などを捧げる(B)によって、そのような荒々しい神の力を豊穡と安穩をもたらすものへと転じさせようとした。また(B)には、罪や穢れによってもたらされる災厄を払うという目的もあり、それに携わる者には神に対して偽るところのない純粋な(C)が要求された。なお、古神道には教えをまとめた経典は存在しないが、古代の神道に関する記述を含む「神道古典」と呼ばれる文献を通して、その実態をある程度把握することができる。

(D)世紀に仏教が伝来すると、当初仏は(E)と呼ばれ、在来の神と同様に神として祀られた。しかし聖徳太子は本格的に仏教を受容し、その教えを追究しようとした。彼が制定した『憲法十七条』第2条には、仏教を第1条で強調される(F)の精神を支えるものとして理解し、国政に生かそうとする姿勢が見られる。奈良時代に入ると、仏教はそれによって災厄を鎮め、国の安泰をはかるという目的のもと、朝廷の保護・統制下に置かれることになった。聖武天皇は政変、地震、天然痘の流行といった危機に直面し、詔を発して全国に国分寺・国分尼寺を、また諸国の国分寺の総本山として(G)を建立した。そして出家は国家の許可を得て行われるものとされ、そのための場所である(H)が(G)に設けられた。また(I)と呼ばれる諸学派が生まれ、仏教の教義が盛んに研究された。

このように仏教は国家と結びついて次第に日本に定着していったが、在来の神信仰が完全に失われてしまったわけではなかった。神は衆生と同様に苦しんでおり、仏教によって救われる存在であるという思想のもと、奈良時代には神を解脱に導くために神社に(J)が併設されるようになった。また、同じく奈良時代には

問3 文中下線部(b)について、この文献のひとつに数えられる、8世紀に成立した日本最古の史書の名称を答えなさい。

問4 文中下線部(c)について、このような思想を何と呼ぶか、答えなさい。

問5 文中下線部(d)について、このような考え方を何と呼ぶか、答えなさい。

問6 文中下線部(e)について、このような現象を何と呼ぶか、答えなさい。

問題3 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

西洋思想史において、正義は個人と共同体のいずれを優先すべきかという緊張関係の中で論じられてきた。正義論の歴史は古代ギリシア・ローマにさかのぼるが、現代に至るまで大きな影響力を及ぼしているのがアリストテレスの正義論である。彼にとって正義とは「各人にふさわしいものを与えること」であり、各人の能力や功績に応じて財貨を受け取るというような（A）と、取引や刑罰における平等を守る（B）に区別される。このような正義は人間が社会生活を営むうえで必要な（C）の中心であるが、人間とはポリスの動物であるから、ポリスの中に生きることが（D）を獲得するための必須要件であるとされる。

共同体を重視する考えは、キリスト教の思想家であるアウグスティヌスにも見られる。しかし、彼が念頭におくのは地上ではなく、（E）における共同体の秩序である。ローマ帝国の衰退や地上の混乱を目にした彼にとって、（F）はアリストテレスが考えたような（C）の共同体ではなく、罪の結果として要請される強制的秩序に過ぎない。それゆえ、正義や友愛といった共同体的な要素は（E）において初めて実現されるという。

ところで、近代になると、正義論は絶対王政や宗教戦争を背景として個人の権利を基礎にして再構築された。ホブズは自然状態を と捉えたが、正義とは人間が自己保存の自然権を守るための相互契約を結び、国家による保護が実現された状態のことである。そして、そのためには主権者への絶対的な服従が必要とされた。ロックはこれに対して、生命・自由・財産といった諸権利の（G）は不可侵であり、国家は生命や自由などの権利を保証するために存在するが、政治のあり方を最終的に決める権利は国民にあると説いた。

ホブズやロックが国家の正当性の基礎づけという観点から個人の権利と社会の関係を検討したのに対し、アメリカの哲学者であるジョン・ロールズは多様な価値観をもつ人々が平等に共存できる公正な制度をいかに設計するかという目的のもとで両者を調停する理論を提示した。ロールズは人々が自分の地位や能力を知らない（H）において合意する原理こそ正義の基準であるとし、そこから合意されるものとして、（I）の原理という第一原理と、公正な機会均等の原理と（J）原理という第二原理を導き出した。しかし、ロールズが『正義論』

で展開した立場は、現代の政治哲学や福祉政策の議論に大きな影響を与える一方で、個人の権利や自由を重視するあまり、共同体や伝統的価値の役割を十分に評価していないという点で多くの批判が寄せられた。正義をいかに個人と共同体の双方にとって公正なものとするかという問いは、現代社会における重要な課題である。

問1 文中の（A）～（J）に当てはまる語句を以下の①～⑫の中から選び、番号で答えなさい。

- ① 信託 ② エウダイモニア ③ 調整（矯正）的正義
- ④ 保有権 ⑤ 格差 ⑥ 原初状態 ⑦ 平等な自由
- ⑧ 地上の国 ⑨ 神の国 ⑩ 全体的正義 ⑪ 配分的正義
- ⑫ アレテー

問2 文中の に当てはまるこの状態を表した彼の言葉を答えなさい。

問3 文中下線部(a)について、彼のこうした考えを何と呼ぶか、答えなさい。

問4 文中下線部(b)について、彼の考えとして正しいものを、次の①～④の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 個人を平等な自由の主体として最大限に尊重したうえで、それを保護するために政府による再分配を認めるべきである。
- ② 正義は単に権利や資源の平等を確保するだけでなく、それによって実際に何ができるか、どのような生活が実現できるかという個人の能力の拡大を基盤として評価されるべきである。
- ③ 個人の利益よりも社会全体の平等や共通善の実現を重視し、政府や共同体が資源を再分配して全員の生活を保障すべきである。
- ④ 生命や自由といった個人の権利は絶対的に優先されるべきであり、政府による再分配や共同体的価値の押しつけは不当である。

問5 文中下線部(c)について、このような批判を行った人物を一人答えなさい。